



防コミの歩き方



防コミ委員長に直撃インタビュー！

今回は、防コミが抱える課題について兵庫区・ひよどり地区防災福祉コミュニティの森田委員長に直接お話を伺いました。

一防コミ活動に幅広い年齢層の市民を取り込むために工夫していることは？

私のところでは、まず地域内の小・中学校のPTAと生徒たちを呼び込むことに特に力を入れています。そのために学校行事には私たちも常々参加してお互いに顔の見える関係を築いています。そのかいあってPTAの方には子どもが中学校卒業後も継続して防コミ活動に参加してもらっています。

さらに訓練には20～30人の夢野中学校防災ジュニアチームが毎回参加しています。

要援護者避難支援訓練などではリヤカーに要援護者役の大人を乗せて避難所までの上り坂をぐいぐい進んで行くなど若い力を発揮してくれます。

阪神・淡路大震災のときは、ここの中学生たちが避難所（夢野中学校）でボランティアとして大活躍してくれました。

一防災訓練に対するこだわりを教えてください。

訓練のモットーは「楽しみながらやる」です。要援護者避難支援訓練、けがの手当て、AED、消火器取扱訓練などは何度も繰り返します。マンネリでいいんです。

それに加えて目新しいことも取り入れますよ。最近ではバルコニー隔て板破壊体験訓練などをやりましたね。今度は防災訓練を夜間に実施してみたいなと思っています。本気ですよ（笑）。

一地震などの大規模災害が起きたときに防コミは機能しますか？

機能すると思います。しかし、私たち防コミは、まず自分や家族の安全を確認したのちに余裕があれば活動に移るというスタンス。自助があつての共助だと思います。地震が起きたらすぐ活動ではありません。

一活動助成金について聞かせてください。

お金がなかったら活動できません（笑）。数年前に提案型活動費の助成申請をしましたが審査で落とされ、そのときは自分のところの防コミ活動が認められなかったという悔しい思いをしました。神戸市は防コミ活動を推進させようとするならば、もっと予算を拡大してほしいですね。

そこのところよろしくお願いします（笑）。

一あと何年委員長やりますか？

今はやめたくてもやめられない状態ですね。誰か手を挙げてくれたらねえ。実際、一番の課題は委員長の後継者問題ですね。



その他の課題も含めて約1時間インタビューをさせていただきました。森田委員長の言葉からは、防コミ委員長としての熱い思いがヒシヒシと伝わってきました。（脱帽！）

（兵庫消防署 角田浩二）